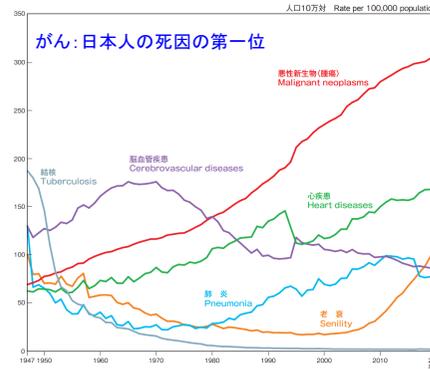


図書館でのよりよい医療情報提供のあり方を考える
 ～市民の課題を解決する図書館であるために～

医療機関・医療者が望む (がん)医療情報提供のあり方

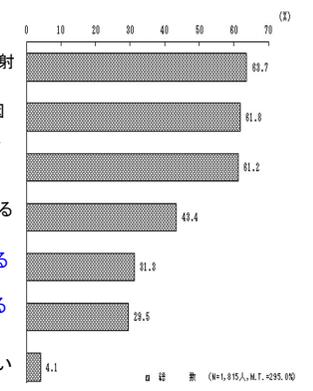
国立がん研究センターがん情報ギフトプロジェクト
 プロジェクトリーダー 若尾 文彦
 ganjoho.jp



年間100万件が診断、38万人が死亡
 生涯でがんにかかる確率
 男性65%、女性51.2%=>2人にひとり
 5年相対生存率 64.1% 2009～2011年診断例

世論調査 内閣府 2016年11月

治療法には手術、化学療法、放射線治療がある
 たばこは予防可能な最大の原因
 子宮頸がんのように若い世代がかかるものもある
 死亡者1/3はがんで亡くなっている
 2人に1人ががんにかかる
 5年生存率は50%を超えている
 わからない



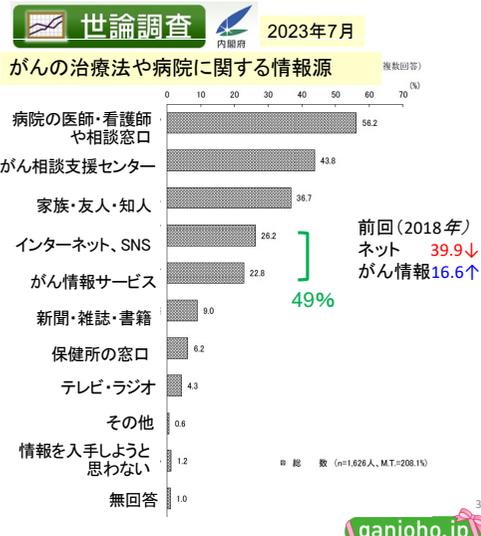
ganjoho.jp

がんのイメージ

- がんは稀な病気
- 不治の病 => 他人事
- がんと告知されるのは、会うことのない大事件！
 - 告知され頭が真っ白。
 - 標準治療を受けずにネットで見つけた自由診療に飛びつく
 - がんの診断で離職
- がん検診を受けない
- 喫煙率下げ止まり

がんになる前から、最低限の知識を持つておくことが大切

- 巷のがん情報の信頼性
- 確かな情報の在りか



ganjoho.jp

ネット情報の信頼性

5がん種(肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、肝がん) X (治療/治癒) => トップ20 247サイト中

レベルA(科学的根拠に基づく)	10.1%
レベルC(間違った有害な情報)	38.5%
レベルB(どちらでもない)	51.4%

Google ウェブマスター向け公式ブログ

医療や健康に関する検索結果の改善について
 2017年12月6日
 この変更は、医療や健康に関する検索結果の改善を意図したもので、例えば医療従事者や専門家、医療機関等から提供されるような、より信頼性が高く有益な情報が上位に表示されやすくなります。本アップデートは医療・健康に関連する検索のおよそ60%に影響します。

- ✖ ネットの科学的根拠に基づく情報は10%
- ✖ アルゴリズム改善繰り返されても、問題があるサイトが上位に掲出

医療機関であっても、科学的根拠に基づかない情報を出している

書籍情報の信頼性

【例】朝刊に掲載した書籍*広告について

某全国紙webサイトより

*海外の医師による「がんの新しい治療法」に関する書籍



広告掲載後

「このような治療法に科学的根拠はない」などと指摘する専門家らの意見がSNSなどで拡散。

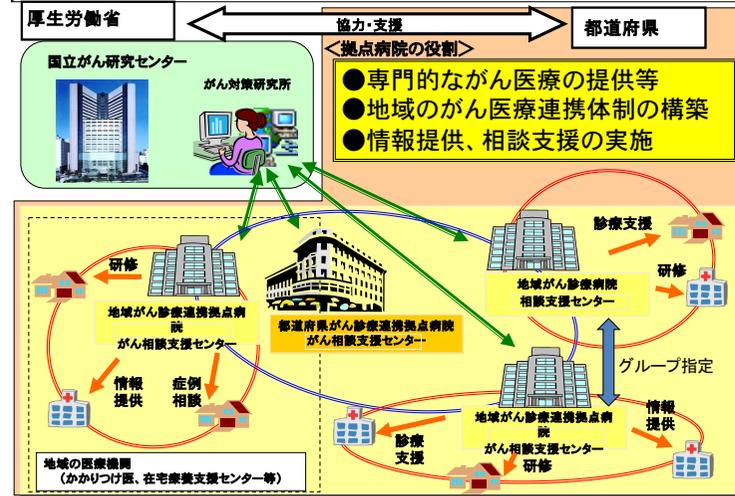
新聞社対応

- 治療法発見者とされる人物が、がん治療をめぐる医療行為ができなくなったなどとする現地報道があったことを確認。
- 出版物広告の掲載判定にあたり、内容に応じて慎重なチェックに努め、とコメント。

※書籍の情報、新聞などの書籍の広告も注意が必要

ganjoho.jp

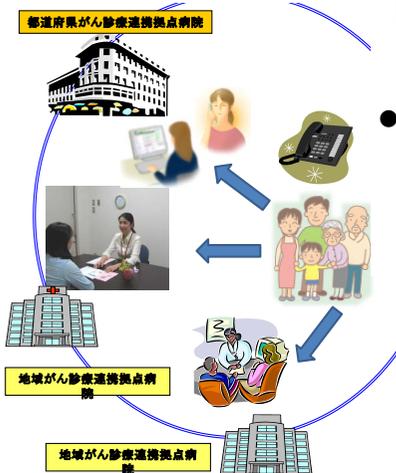
がん診療連携拠点病院制度



- 全国の各がん医療圏に概ね1か所
- 計456か所設置
- がん情報サービス「相談先・病院を探す」で検索可

ganjoho.jp

がん相談支援センター



●がん相談支援センターの特徴

- 誰でも相談できる (病院にかかっても)
- 電話、訪問など、
- がん対策研究所で研修を受けた相談員が対応
- 相談員は、看護師、医療ソーシャルワーカーなど

●相談内容

- がんに関する一般的な情報の提供
- 地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供
- セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- がん患者の療養上の相談など

患者体験調査(2018年)より
がん相談支援センター認知度 66.4%
知っている人で利用したことがある 14.4%

利用したことがある人
とても役立つ 33.1%
ある程度役立つ 39.9% } 86.9%
やや役立つ 13.9%

がん情報サービス



提供する情報の作成方針

- 治療に関する内容では、最新の科学的根拠に基づく情報であり、科学的根拠に基づかない情報である場合は、臨床的に明らかな誤りがない。
- 患者・家族等にとって、担当医をはじめとする医療者とのコミュニケーションに役立つ情報である。
- 患者・家族等が最低限知っておくことが望ましい基本的な情報を主とする。
- 全体としての情報量に偏りがない。

ganjoho.jp

第4期がん対策推進基本計画(2023年3月)

全体目標と分野別目標

全体目標:「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

「がん予防」分野の分野別目標
がんを知り、**がんを予防**すること、**がん検診**による早期発見・早期治療を促すことで、**がん罹患率・がん死亡率の減少**を目指す

「がん医療」分野の分野別目標
適切な医療を受けられる体制を充実させることで、**がん生存率の向上・がん死亡率の減少**・全てのがん患者及びその家族等の**療養生活の質の向上**を目指す

「がんとの共生」分野の分野別目標
がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる**地域共生社会を実現**することで、全てのがん患者及びその家族等の**療養生活の質の向上**を目指す

これらを支える基盤

(3) **がん教育及びがんに関する知識の普及啓発**

国民ががん予防やがん検診による早期発見の重要性を認識するとともに、**がんを正しく理解**することを目指す。

がん相談支援センターやがん情報サービスの認知度及び質を向上させ、精神心理的・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができ、また、**患者やその家族等、医療従事者等を含む全ての国民が、必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつく**ことを目指す。

全ての国民が、必要な時に、
自分に合った正しい情報にたどりつくことができるために

- がん患者の高齢化、家族の高齢化も進んでいる
 - ▶ ネットへのアクセシビリティの制約に配慮が必要
 - ▶ 地域にある身近な場で情報を手にできることを考慮
- がんと診断されて初めて情報を探るのは、時間的にも、心身の負担の点からも非常に大変
 - ▶ 病気になってから初めて触れるのではなく、生活の場の中で日頃から**情報に接する場がある**ことが、「がんになっても安心」の社会づくりに不可欠
 - ▶ 誰でも利用可能な、すでにある地域に開かれた場である図書館・公民館など、**地域の公共施設の活用は有用**

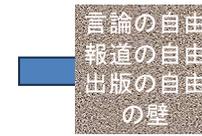
公共の図書館や図書室に、正しいがん情報を普及させていく

基本計画の実現のために・・・医療者として考えること

- ▶ 患者やその家族等、医療従事者等を含む全ての国民が、必要な時に、自分に合った**正しい情報にたどりつく**ことができること
- ▶ **がんを正しく理解**すること



- ① **正しい情報**だけを参照できる安全な場がある
- ② **誰もが、その場にたどりつく**ことができる
 - ▶ 最新の専門知識に基づいた情報の取捨選択がされている
 - ▶ 場の候補
 - a. ネット空間
 - b. 医療機関
 - c. マスメディア
 - d. 書籍



選定されたネット情報
選定された書籍

公共図書館でがん情報を発信

- がんと診断されていない方が生活の中で来る場所
- 全国に**3,315館(市立2,600館、町村立682館(2022))**、小さな町村にもあり、だれでも利用可
 - ▶ がん診療連携拠点病院(456か所)より身近な存在
- 社会教育施設としての様々な可能性**
 - ▶ 地域の勉強会なども開催できる
- 高いコミュニケーション力を有し、情報の整理整頓が得意な**司書が常駐**
 - ▶ 近くの拠点病院の**がん相談支援センター**などと連携することで、医学的知識を増強できる



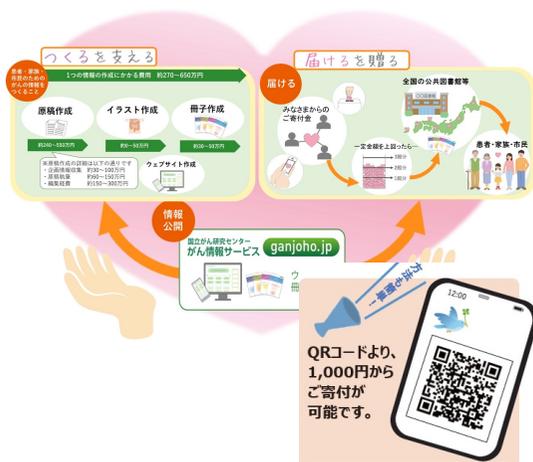
これまで届かなかった人に信頼できるがん情報を届けることができる



財源として皆様方のご寄付を活用させていただく

がん情報ギフトプロジェクト 2017年8月～

市民・企業の皆様からの寄付で、図書館に「がん情報ギフト」セットを寄贈



「がん情報ギフト」の内容と取り組み

- 新規館への寄贈
 - 配布用冊子・ちらし
 - 閲覧用冊子
 - バインダー
 - 簡易ラック



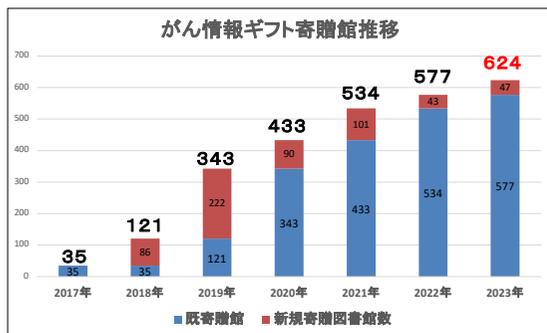
- 既寄贈館への対応
 - 配布用冊子・ちらしの補充
 - 新規作成冊子・ちらしの追加配布
- がん情報ギフト連携プロジェクト

- 「がんを身近に考える」図書展示キットの巡回
- 図書館・がん相談支援センター連携ワークショップ
- がん情報ギフト結ぶ事業



がん情報ギフトプロジェクト 2017年8月～

累計537件、3700万円を超える温かいご寄付を賜り、624館に寄贈



がん情報ギフトを核とした展開

- 信頼できるがん情報であるギフトを中心にがん情報コーナーを設置
- 近隣のがん相談支援センターと連携
 - 利用者の疑問対応にがん相談支援センターを紹介
 - がんに関する選書についてがん相談支援センターに相談
 - がんに関する講演会・勉強会を図書館で開催



身近な生活の場に安全な情報を得られる場を構築